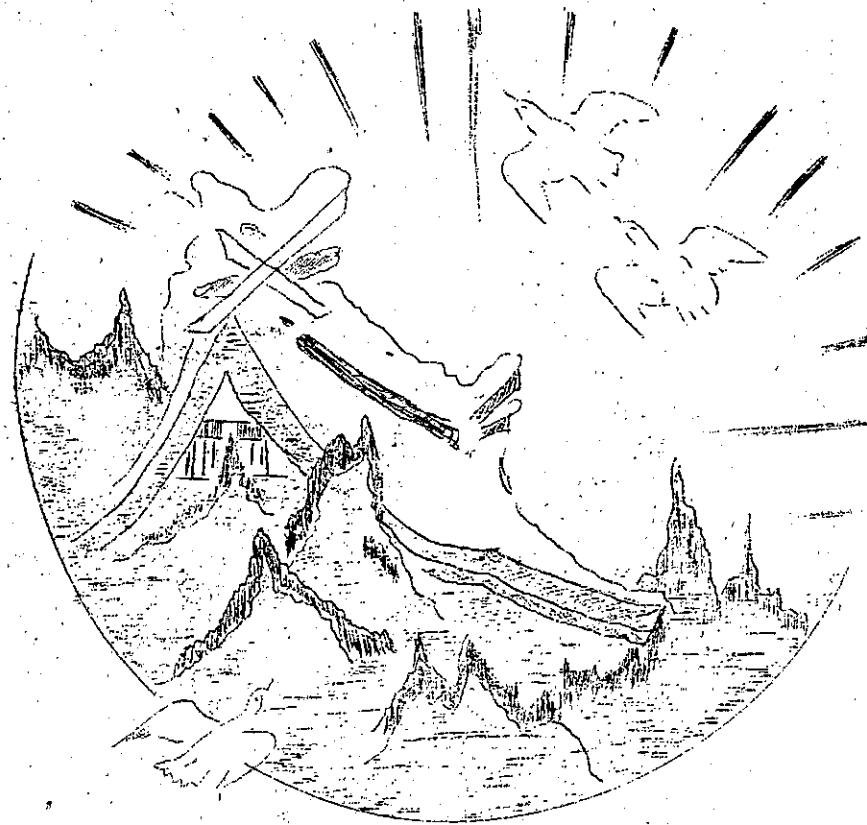


こしで家

號念記祭國建



號月二年三十和昭 號七八一第

行發部輯編しを校學小等高常弄村大

學校日誌

一月三十一日

國防歌本

參於八月或拾五歲也

小園爲重及小使

全

書河六論

女子青年團校徒

實用文部語

百九十三冊

小園爲重及小使

全

十枚

女子青年團校徒

研究授業

四百頁三百六枚

小園爲重及小使

第一階

第一條

横山芳枝

第二階

國語地理

上野茂

本村吉原視察

支子夜

本校視察

午前九時

給食後行

終行進

午前十時

給食後視察國語及算數

終行進

午前十一時

大神山神社参拜

終行進

一金貳円

保護者會基金金

終行進

本村吉原視察

本校視察

終行進

午後批評及本村視察

本校視察

終行進

午後批評及本村視察

本校視察

終行進

二月十九日

放課後職員會

兒童長成會患者多きため本村は閉校會中止

二月十七日

全

保護者會基金金

終行進

二月九日

本村吉原視察

本校視察

終行進

二月十一日

午前九時

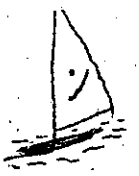
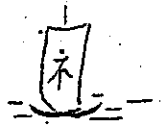
給食後行

終行進

二月十六日
一月十六日

双葉書道會
書初段會成績

票	名	票	名	票	名	票	名	票	名
29	藤池 かつ	25	高田 潤	21	浅沼 廣吉	19	渡辺 純也		
28	横山 昭雄	24	横山 喜久子	20	青木 嘉子	18	小祝 みつ子		
27	永田 綾子	23	島川 公樹	17	藤井 弘子	16	藤原 昭平		
26	平野 昌代	22	渡辺 三朝	16	市木 晃	15	市木 正子		
36	重田 彌生	21	藤池 静子	15	磯崎 静夫	14	磯崎 静夫		
33	奥山 昌英	20	原田 年光	14	藤池 照子	13	藤池 照子		
16	土屋 せつ子	15	知田 清	14	藤池 照子	12	藤池 照子		
29	藤池 かつ	22	奥山 宣夫	15	知田 昌明	15	知田 昌明		
21	高崎 テル子	21	高崎 テル子	19	神山 茂子	19	神山 茂子		



ハトバニフネがタクサンキマシタ。ムカフニ見ヘルノハ、ホゲイセンデス。マターサウハイッテキマシタ。マタベツノガ、ウゴダシマシタ。カラ、ボクハムカフノ方ヘイッテミマシタ。トウトウマハッテハキマセンデシタ。ボクハガッカリシテカヘリマシタ。

テラダ ヒロフミ

ボクたちハセンセイトハトバヘイキマシタ。

タカサキヒサラ

左ノ方ニハカクノウコガアリマシタ。右ノ方ニハトウダイガアリマシタ。ホゲイセンハ、オキニアンカラウッテカカツキマシタ。マタ、ホゲイカインシヤノ方カラシラオミヲキッテキマシタ。

ソノホゲイセンガトマロカシタラ、トマッテイタシヨウワガウゴキダシマシタ。ソノ時、元日ノチンマガコチラヘキマシタ。

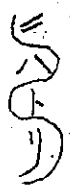
タカタジュン

ケフ先生トハトバヘイキマシタ。石ダンニユシカケテ、タイサウラシマシタ。ムカフニ、アメリカノフネガウカシマシタ。ホゲイセンモニソウウカンデキマシタ。マタホゲイセンガ素マシタ。アハセテ四ソウデス。ソウコチラヘキマシタ。モウソウハカヘッテイキマシタ。

ムカフニハカクノウコが見ヘマシタ。ケフ八風ガソクテ、フネハユレテキマシタ。クロイワノ方ニ、大ナミガザンブザンブ立ッテキマシタ。

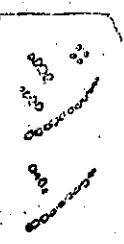
アサヌマカズコ

私ハ學校後ノオトモダチトミンナデハトバボクノウチノニハトリハスノ中ニハイッテタ
 ニイキマシタ。センセイモイキマシタ。マゴラウマナイデ、ウンゴガリシマシタ。
 左ノ方ニハカクノウゴガツクツテアリマオトウサンガ天シウマルカラカヘツテ
 シタ。右ノ方ニハトウタイガタツテキマシタ。ニハトリガウンゴバカリシテ
 マス。山ノ方ヲミマス。ト、サンカクオ白キマシタ。ニハトリガウンゴバカリシテ
 イ、イタガ立ッテキマシタ。ソノソバニカヒマシタ。
 ゴメガニニバトンデキマシタ。ウミニアクル白ウチノミノルチヤンガ、ヨハト
 ニハホゲイセンガニソウ、ウイテキマシタ。オトウサン
 タ、サカナヲツルフネガイクツモイクガニハトリヲカッテキマシタ。ソノニハ
 ツモ、ハトバニカカッテキマシタ。ソノウ
 チ一ソウホゲイガイシヤニイキマシタ。ドワシテオキニイカナイカト、オモヒマ
 シタ。ナミガアルカライカナイノカモシ
 レマセン。ミンナデヨトウカイノウタ
 ラウタツテ、カヘリマシタ。キヤウシツ
 ニハイッテセンセイガツツリカタノオハ
 ナシラシマシタ。私ハジツトシテキマシタ。
 キマシタ。



キクチ サトル

ボクノウチノニハトリハスノ中ニハイッテタ
 マゴラウマナイデ、ウンゴガリシマシタ。
 オトウサンガ天シウマルカラカヘツテ
 キマシタ。ニハトリガウンゴバカリシテ
 白キマシタ。
 ニハトリガウンゴバカリシテ
 アクル白ウチノミノルチヤンガ、ヨハト
 リガナイッテナキマシタ。オトウサン
 ガニハトリヲカッテキマシタ。ソノニハ
 トリヲキマシタ。オトウサンガボクニ
 ガスニツクトヒヨコガウマレマシタ。
 タゴ
 オクマトシラ
 ボクハタマゴヲトリニイキマシタ。トリ
 エモノタマゴノハコヲミマシタ。タマゴヲ
 ウンデアッタ。ソレヲツカンデウチヘ
 モツテイキマシタ。オトウサンガボクニ
 カホヲアラヘトイヒマシタ。カホヲア
 ラヒマシタ。ウチニハイッテ、アッタカイゴ
 ハンヲヨツテ、タマゴヲカケテタマシタ。
 シタ。ノブコモタマゴヲカケテタマシタ。



つづり方

◎うちのたっこ 浅沼忠子

うちのたっこは、このごろ私がすき
 になつたと見えて、私が學校から
 かへつてきますと、うれしがって私の
 ところへ、かけてきます。私はい
 たっこをつれて、かいがんの方に
 いきました。たっこはうれしがって
 ました。私は、かいがんであそんで
 ました。それなら、ねえちゃん、おいで
 と、いったので、私は、かへりました。
 うちへかへると、たっこは、うれしが
 っておかあさんのところへ、行ってしま
 しました。私は、また、ごはんを、たべてから
 たっこをおんぶして、あそびにい
 きました。そのうちに、たっこは、おて
 しました。ので、うちへかへつて
 たっこをおろして、べんぎやうして

から、あそびにいきました。しげく
 そんで、うらへかへつて、いったら、たっこ
 は、にこくして、うれしやうにおきて
 すわつて、あそんで、おました。

◎うちの はやし 小宮山 光子

うちの はやしは、かはいいで、すし
 て、すこしあるきます。私たちが、おこつ
 ても、わらひます。けれども、おかあさんが
 おこると、泣きます。そして、おかあさん
 が、だいて、ゐる時、私が、おいでとい
 ふと、すぐ、おかあさんの、せなかの方
 へ、にげて、いきます。そんなところが
 かはいいで、す。

◎くぢら 世間瀬信昭

このごろ、くぢらを、とつて、きます。が
 その、くぢらは、けもので、ほげいせん
 の、たいはうに、うたれると、なくさう
 です。さうして、くぢらの、にくを、たべ
 るときは、くぢらが、いきて、ゐると
 おもつて、たべられませぬ。それから、あとで

はたべられました。そしてまたおのあ
 さんにてくださいと。いったらば
 またあしたにくださいと。いつて
 そのあしたにてくださいました。すると
 きのおよりもずっとおいしかったです。
 ◎私のまんと 村一松のこと
 私は前におかあさんにまんとを
 かってもらいましたので、雨が降ると
 学校に着て行ったり、あそぶ時に
 着たりします。またおねえさんに
 かしてあげたりします。私の弟にも
 かしてやります。でもその中で一ぼ
 つかふのは私です。このまへ雨が
 降ったのでがっかうにきてまつや
 までくると、雨はだんくふつて
 きますので、かけて行きました。学校に
 くと、雨が降らなくなつてしまひ
 ました。学校がをはると、まんとが
 わからなくなつてしまひました。そし
 て一つしかのこらないから、それを

みると、青木よしこと書いてあるから
 よしこちゃんにきいて、みたらよしこ
 ちゃんもつてみましたので、かへて
 からかへるとき、私がありがたうよ
 といひますと、よしこちゃんはごめん
 よといひました。すこしはなしをして
 みんなわかれてかへりました。
 ◎私の本 小林美江子
 私の本はあまりきれいでありません。
 私はきれいにしたいと思ひますが
 どうすればきれいになるかわかりま
 せん。それで、おねえちゃんにきくと
 ちいさい子に、いぢらせないで、こ
 しまつておかなければいけないとしか
 られました。そしてまたおとうさん
 ききましたら、おまへにいつても
 すぐわすれるからといひましたので
 私はどうしたらきれいになるか
 わかりません。



へばとがまんした。山羊が
 と鳴いた。さむさうなこゑだ。
 山羊もさむいのだらう。

◎朝
 夜が明けた。僕はすぐに床を出た。
 外はまだうす暗い。
 海岸へ行つた。空は眞赤だ。
 僕はうたをうたつた。
 こゑを張り上げて
 「天にかはりて、ふぎを打つ
 忠勇むさうの我が矢は」
 とうたつて居るうちに、矢隊さん
 の戦うて居るすがたが目につかんだ。
 ○○城一番乗り。
 たまにやがれた日章旗をうちかつ
 てゐる矢隊さんのすがたを思ひう
 かべた。
 考へて居るうちに、いやつとした。
 風が吹いて来たのだ。さむくなつた。
 何のくらゐ戦地の矢隊さんを思

◎僕のはたけ 兎玉完
 僕のはたけは小さいけれど、なつばや
 豆の木がうゑてある。
 さうして豆の木は一日に三センチメ
 ルくらゐのびます。
 時々犬が僕のだいじなはたけを
 あらす事がある。
 そんな時、僕が見つけると、おひかけ
 やる。すると犬は僕のかほをなめます。
 きのお僕はくふうしてようさい地の
 やうに、はたけのまはりには糸をはつ
 て犬がはいれないようにしました。
 そして僕は毎日それに水をかけてや
 ります。

◎朝
 夜が明けた。僕はすぐに床を出た。
 外はまだうす暗い。
 海岸へ行つた。空は眞赤だ。
 僕はうたをうたつた。
 こゑを張り上げて
 「天にかはりて、ふぎを打つ
 忠勇むさうの我が矢は」
 とうたつて居るうちに、矢隊さん
 の戦うて居るすがたが目につかんだ。
 ○○城一番乗り。
 たまにやがれた日章旗をうちかつ
 てゐる矢隊さんのすがたを思ひう
 かべた。
 考へて居るうちに、いやつとした。
 風が吹いて来たのだ。さむくなつた。
 何のくらゐ戦地の矢隊さんを思

◎僕のはたけ 兎玉完
 僕のはたけは小さいけれど、なつばや
 豆の木がうゑてある。
 さうして豆の木は一日に三センチメ
 ルくらゐのびます。
 時々犬が僕のだいじなはたけを
 あらす事がある。
 そんな時、僕が見つけると、おひかけ
 やる。すると犬は僕のかほをなめます。
 きのお僕はくふうしてようさい地の
 やうに、はたけのまはりには糸をはつ
 て犬がはいれないようにしました。
 そして僕は毎日それに水をかけてや
 ります。

◎うちの赤ちやん

浅沼昭平

うちの赤ちやんはことし三才です。女ですがとてもらんばうです。おかあさんが僕たちにおこわしを下さると、「うん」といって僕たちの足にかかりつきます。にげていくと、立ってあるいて来ます。かくれておると、「ほあ」といってわらひます。

名は昭子といひます。おんぼしてやかとよろこんで僕の頭をなぐりました。学校に行つたらいつの間にか僕はうちへかへつておろしてもらひました。僕は又うちの前であそびました。時々昭子のねがほを見ながらあそびました。

◎きんぎよ 石津秀子
うちにきんぎよがあります。みんな

へいきおます。このきんぎよはおとうさんがおやくしよからもつて来たのです。さうして私たちにそれぐ一匹づつくれました。私のは白色に赤が所々にあります。水を一日おきにとりかへてやりませう。よし子は「でべ」。といひきんぎよで目がとび出して白にうすくみかん色がまじつてあります。私は「でべ」を見るときにおもしろくなつてふき出します。よし子はきんぎよのそばへ行つては水の中に手を入れて「バシバシ」やるのでお父さんはあみをかけてその上に石をおいておきます。あくる朝私が水を汲んで居るとよし子がきて私をひつはつていくので私はいつて見るとよし子はきんぎよばちをゆびさしておます。私はあけて見ると水がきたなくなつてきんぎよが苦しうになつておたのい水をとるかへて心を入れてやりますと喜んで寄つて来てくれました。赤んぼうでさへも、たなくなつてゐるのかわかるのかと思つてほんたうにかんしんしました。

二月

(紀元節)

綴り方

尋



◎弟のきんぎよ

メリーゲレー

此の間の日曜と日曜の子とほげいさんの三上さんとうちの弟とうら輝へ遊に行きました。とても道が悪いので綴り方も二つありました。私はこの人でも何でもありませぬが弟がこちがと思つて心配でたまりませぬでした。けれども行きにはたいした事はありませぬでした。たが帰りにかけの所へ落ちてひびいけがをしました。三上さんと私はとんで弟の所へ行きました。弟はかほいさうに頭に大きなきんぎよを愛けて泣いておりました。私は弟が泣いてさうなりました。私はずいぶんおんがして途中まで行くと頭から血がたろ／＼出

◎頭かり

高木 八重子

て来ました。私は三上さんのハンカチをかりてかきました。おぼろ／＼と血はとまりませぬ。私は着物をぬいぎのきんぎよをふいてやりました。けつかう血がとまったので血が出るといけなと思つて、いそいで家へ帰りました。

「がらり」とかきす音をあげてはいると五人来ておる。あしたは紀元節なので、大勢島市のとこ屋さんに頭をひつてもらひに来たおます。はいつて、こしかけにすわつて持つておるともう、きんぎよをかきつてしまつたので男の人が「こしかけれ」と言ひました。こしかけながら「のりあげに出来たらして下さい」と頼みます。と、「うん」と言ひながら肩の所からこしかけをかけて、後ろに水をつけてぬぐい、こしかけをいけ、くしをあげ、はき、きんぎよはき、こしかけ、だん／＼と上げておりました。と、こ屋の鏡で見ると、髪は短くしてへんでした。家へ帰つてお母さんに見せると、「おんがらり」かきつたか

「うなむ短かかったのだよ。今度こそは平氣だよ」と言はれまされた。私は今度こそをさげたいにしてもらおうと思ひます。

● 火曜日の夜

羽鳥 紫久

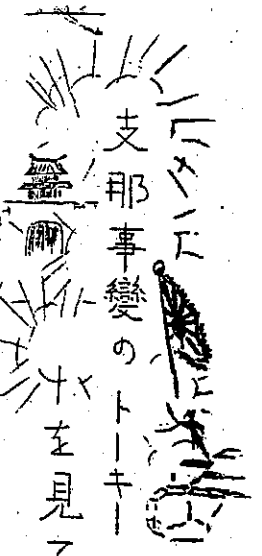
「ざあ」と雨の音。皆一せいにねどあいなをわが始めた。校長先生は僕等の書いた字を一生けん命になほして下さつてゐる。朝はますますどしやぶりになつて来る。三朝君が僕たちの書いた字をよとめて先生の前に出した。先生は「おんをのせ、煙草も取出してふかし始めた。やがて僕たちの字をなほしはじめた。三朝君の字は大へんと書だつた。「僕も、おんなに書けたらいいな」と思つてゐる中に、皆なほしてもらつて煙草もことになった。「照平君、僕もかさに入れておくれ。」とたのむとさげんよく承知してくれた。「おひやく」所の降る雨を歩いて、けいさつの所まで来ると、照平君が「あら」と驚き立って止つた。「どうかしたのかい」と聞くと

「お母さん、早く食べなさい」と言つたので、箸をとおしておいしく夕飯を過した。

● 夕飯

紅田 愛子

「早くしておくれ。お腹がペ〜ン〜ンだ。」私は台所へ向つて叫んだ。お母さんは「いいい」とお母さんがかつををつくつてゐる。おいしいにほひが家一ぱいにみちみちする。しばらくたつとお母さんが「おちやく〜」ゆげを立て、あるかつをばかひながら両手で持つて来られた。私と兄ちゃんはいそいでおせんのおぼへかけつた。お皿の上には、くちらをつゝんだ玉子が黄の色を輝かしてゐる。私はそれを見て一口に食べたいと欲しくなりました。お母さんが「早く食べなさい」と言つたので、箸をとおしておいしく夕飯を過した。



支那事變のトキー
方綴五尋

飯田武郎

昨夜のトキーは本當にい、寫眞でした。雨があられと飛ぶ来る弾丸をく〜つて突げまして行く兵隊さんの勇ましい姿や敵陣を占領して萬歳を叫んでゐる所を見ると、僕の心もどつて自分も戦争してゐるやうな氣持になりました。早くあのにくい支那軍をやつ、けてしまひたい。だが支那の人民たちが戦争のために殺されたり、食物もなく外で悲しうに立つてゐるのを見る。何だかわいさうな氣が起つて来ます。僕等がこうして楽しく暮せるのも兵隊さんがあのやうに勇ましく戦つて下さるおかげだと思ふと、ほんたうに有難い氣持がしました。僕等も皆心を一つにして早く支那を降参させるやうにしませう。

● 大沼勤之助

大沼勤之助

昨日の映画を見た時僕は兵隊さんの苦勞してゐるのがよく分りました。兵隊さん達は弾丸が雨あられのやうに飛んで来るのをまびくともしないで突撃して行きます。若し日本の兵隊さんが弱くてまけてばかりいたら僕等は何時分どうなつてゐるでせう。支那の人民たちは食べるお米もなく親子はなれ〜になつてしまつてゐるのを見るとやつぱり支那軍が弱いためだと思ひます。僕等は日本に生まれ

● 菊池吉彦

菊池吉彦

昨夜僕は支那事變の映画を見た。その時一番強く感じた所は日本の兵隊さんが湖を舟で渡つて行く時向岸の敵が我軍に機関銃をあげて射かけた。すると日本軍でも機関銃を打ち出した。その内に舟は岸に近づいた。その時日本軍は我先にと湖に飛び込み陸に上り、そして

突けきして行つて遂にそのトーチカを占領してしまつた。僕は日本の兵隊さんは本當に強いと感じた。

阪東信子

夕方七時頃から活動は始まつた。今日はトーチカであるから校庭は一ぱいの見物人であつた。兵隊さん達のあの勇ましい姿を見ると、何とも言へぬ氣持に打たれて胸が一ぱいになつた。さんごうを掘る兵隊さん橋をかける兵隊さん、さほどかたで働いてゐる。橋をかけた終つた時、あの萬歳々々と言つて出上つたのを喜んでゐる兵隊さんの姿を見た時私は思はず涙が出た。

又戦つてゐる兵隊さんあの死物ぐるひの働きたと支那の人民をかはいがつてやるあのやさしさをみると日本の兵隊さんは本當に勇氣もありなすけもあつてえらいと思つた。

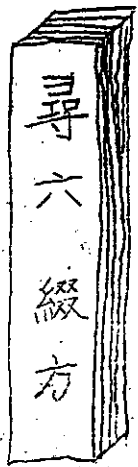
矢堀恵美子

ドン／＼と打出す鉄砲の音。あの勇ましいい

兵隊さんの働きにすつかり感心してしまひました。川に橋を渡す工兵は實に勇ましい、有様です。あんなにして敵のたまが飛んで来る中を平氣で橋を渡す工兵はどんなに誇り、仕事でせう。しかも其の橋を渡さねば日本軍はあのやうにどん／＼進んで行くことは出来なかつたでせう。若し日本軍が支那軍のやうにまけてばかりいたら私達はどのやうに樂に暮せなかつたでせう。本當に有難いのは兵隊さんのおかげです。だから私たちは今一生けんめい勉強して後に立派な人間となつて御國のためにつくすやう努めませう。

浅沼隆

昨夜の活動寫眞に兵隊さんの苦勞してゐる事が目の前にあらはれた時僕は本當に今までせいたくをしてゐたことがはつきり分りました。そして本當に兵隊さんにはありがたひものだと心の中に思ひました。それから南京入城の時松井大將を先頭に、我が軍が堂々と入城して行くのを見て本當にうれしいと思ひました。



朝 浅沼敏一

身を切るやうな朝風にふかれながら波止場の石炭の上ののぼつた。捕鯨船は黒煙をはき出して鯨を取りに行く。入れちがひに二見港に入つて来る漁船間もなく岸に横づけになつた。僕は石炭の上から下りて冷蔵庫の方に走つていつた。大漁だ。小さいので五六貫から十七八貫のまぐろ。バチ・トンボ・カヅキ・キワダ等別々にならべられる。鉄次がきて「あつこをしよう」と言つた。僕はすぐはじめた。初めのうちはあたりなかつたが「六貫七百」と僕が云つたのがあつた。間もなく鉄次があつた。さうすると鉄次は「いばつて」とうたい、おれはうまいだらうと云つて鼻をたかくした。太陽は早東の空に赤々とかがやいてゐる。僕はいそいで家に

かへつて學校さして走つて行つた。

夜ぬる時 神沢とみ子

夕飯をすましていそ／＼ぬる時間が来ました。ふとんをしいて少し遊ぶ。それからねどこに入つてゐる。ねどこの中で弟が私やおかあさんたちに今日學校で先生になつたことをみんな話します。すべて皆で大笑ひをします。時には先生の幼少の頃のことをきいてみんな話します。こんなにして毎晩ぬる時には話をしきかれます。私はそのくわしく話をするのには全く感心してしまひます。

くせ 浅沼誠

早いものだ。後一月で六年間の義務教育を終へるのである。今考へると一年から六年までにしたことがもの足りなく思はれて何とな

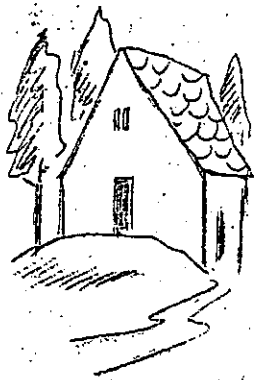
く残念である。それは自分にわるいくせがあるからだと思つてゐるがそれがどうしてもなほせない。だん／＼づう／＼しくなつて、物事を今しなければならないことを後にのぼして遊ぼう遊ぼうと思つて遂あそびすぎる。そして後であの時すればもう出来ていたのにと思つたことが少くない。だが今だになほつていな

國旗 重田 孤生

白地に赤く日の丸をめぐらして、それが大日本帝國の國旗は言ふまでもなく日の丸の旗である。幾多の世界の國旗の中でも我が國旗程、美しくけだかいものはないでせう。我が國旗が白地に赤の日の丸を染出してあるのはどういふわけでせうか？ 平和の色である。白色はいさぎよい色である。平和の色である。

赤影は熱心を表し、真心をあらはす。日の丸の旗は赤い真心のかたまりをいさぎよい平和の色で包んでゐるので大和魂を表してゐる。我が日本國民は國旗の精神を深く心にこめて、世界のすみ／＼に、道も我が國威を輝かす覺悟がなくてはならない。

ぐみ取り 太幡文二
日曜に富士雄さんと大滝の父の所へ行つた。十一時頃ついた。山が此の前より廣くたがやされてゐたお父さん。父はにこ／＼しなから来たためか途中にぐみがあつたらしく、たぐみを取つたから取つて来たよ、これ。おれ／＼成る程、小さいな。それから父にぐみのある所を教へられて二人でかけて行つて見ると「おつ、おそこにあつた。見ると長さ二種、ぐみのめがたぐみさんなつてゐる。食べたり取つたり急がしい。二人共憎子に一杯取つて食べながら家へかへつて来た。まはりり」



高 一
綴 方

昨夜の子供の時間 重田 實

僕は夕食をすませたらテオのスイツナをぬちつた。するとこれから子供の間ですとアナウンスが云つた。始まつたのは児童劇であつた。それはアメリカ合衆國の領土アラスカの或村で、テフテリアが大層はやつたのです。村の子供はその病気で死んで行く。毎日々々その數がふえ行く。一薬はたりなくはる。終に本國に救助の電信をうつたのです。この電信を本國にとり交してゐる最中局長さんの子供もテフテリアで死んで仕舞ひました。けれども局長さんは平然として任務を果しました。やがて本國からテフテリアの血清注射液がといて、其の村の子供が助

机と腰掛 黒川金一

かつたと思ふ病でした。其の時僕は日本の醫學の今後益々進むように祈つて床の中へ入つて寝ました。

二月某日第四時間目の始まる鐘が鳴つた。何時も僕をいじめる生徒が僕の仲間の腰掛君の上に腰を下した。すると間もなく腰掛君は「うう／＼泣き始めた」うで僕は「君が泣いてゐるな、泣き始めたら」と云つてしりぞきを聞いたら「上の生徒が僕をナイフでけするのだよ」と云つて又泣いた。僕は「困るな」と獨言を云ひながら神様はどうかこの子が先生におこられるやうにと祈つた。すこしたつと「痛いな」と僕は急に叫んだ。隣の腰掛君が「どうしたの、どうしたの」とうた。どうしたんだ、と僕に聞いた。僕は「この生徒がわこにバスの尖つた先を注射したと云つて四五回僕を刺したのだよ」と笑ひたくも笑へない氣持で答へた。僕の注射もすんだ。

まだロリくする。僕は後二月たればこの生徒とわかれるのだからもう少しの我慢だと自分をなぐさめた。

・たぐなつた時間割 小宮山清子

或夜の事だつた。勉強が終り時間割をそろへようと思つて引出しに手をかけた。開けで見るといつもおくと二つにない。あ、たしか昨夜勉強が終つてから二つにない。あ、あそこだと思つてそこを見てもない。しばらくの感情が天の如く心の中をどろどろと廻る。しばらくあちこちをさがしてめたが流石に探すのはいやになつた。さうなるとそら文句かはじまる。ぐぐぐぐぐりながら手當り次第にその引出をあげた。あけるとすぐ目の前にその時間割が出た。私はほつと溜息をついた。私はこの時何時もそこらにはうりなげにおくからさうゆうことにはなるのだと思ひ出さぬに時間割を胸に抱きしめた。

・お話の時間

淺沼十三子

よく三時間目の綴方の時間になつた。先生が一人づつお話をさせると思つた時私は困つたと思つた。だがお話は覺えておめた。はや男生は終つた。そして女生の番になつた。段々と番が近づいて来た。もうあと一人と云ふ時は足かかへて座つておられなかつた。私は席をはずして校壇の傍にお話をしようとした。だがどうしても聲がつかまつて出ななつて仕舞つた。仕方なく今度しますと云つてかへつて来た。あとで私はどうしてさうお話をしなかつたらうと思つた。

たより 芝浦ニテ 後藤 茂義

拜啓。在島中は何かと御世話になりました。五ヶ年間のいろいろの想出を後に船が父島を出て行く時は流石に物淋しく感じました。次第々々に島が小さくなり遂に見えなくなると甲板に立つておりました。 後略

高二綴方

日本人の性格

菊池登代

世界各國何れの國に於てもその國民には共通した性格もあらうが又各違つた性格もある。今日本人に對する歐米人の批評を擧げてみれば中には當つておないものもあらうが大體一致してゐる。

日本人の性格を他國民と違つてゐるのは第一と忠告を贈らざるを得ない。ふいふことである。即ちこれが忠告一本となつて我々の行く道はすべてこれだといつておるのである。そしてこの美風を築きあげて来たことは日本人の最良の責任である。

本に祖傳の精神を重んずるとか草木自然を敬ふるとか細いことと信用であるとか機智に富み等全く我が日本人の長所である。清潔潔白を尊ぶ禮儀作法に正しい道徳の美風はあたかも雲にそびゆる富士の山の如きし

健康

藤滝清

健康は人間活動の根本である。如何に愛國心に富み又戦線に立つても健康な人となれば強き戦士である。又如何なる才能を有してゐても常に病身であつたらば何れを發揮することは到底出来ぬ。此の點を顧みて長所を益々發揮すると共に短所を補つて世界に冠する國民性格を築き上げたいものである。

健康は人間活動の根本である。如何に愛國心に富み又戦線に立つても健康な人となれば強き戦士である。又如何なる才能を有してゐても常に病身であつたらば何れを發揮することは到底出来ぬ。此の點を顧みて長所を益々發揮すると共に短所を補つて世界に冠する國民性格を築き上げたいものである。

農業

金川幸男

普通一般の人は農業を卑しい仕事と見て居るが、世の中は農業が中心で、農業が盛んになれば、農業者やまゝと身体が健全になる。船から眺めて日光に照らされて働く百姓の雄々しい姿を見ると、何となく頭の下がるやうな感じがする。これはおそれない。今諸君達が食べている米は誰が作るか、これは百姓が作るものである。世の中は米を食うことだけへな、食うだけの人は、これだけおそれる必要はない。それと比べると、諸君達は如何に幸福をかかぬか、故に米を一つぶでも粗末にしてはならぬ。

編輯後記

一 茲に皇紀二千五百九十八年 輝く祖國の建國を記念するとき、大日本帝國は第三の建國とも云ふべき、大偉業に向つて躍進して居ります。難關を打開せられた後に完成されたやうに、正義世界の再建をめぐり、東洋平和の聖戦に立つ祖國の前途は、なほ重疊たる難關險路であることとを覺悟せねばなりません。之と同事、皆さんの學業の上にも難關を乗り越して勉強しなければ、決してよい成績は得られません。モウ三月の末には皆さんはソレが修業になります。コノ一年どんなに勉強したでせう。小學校で勉強したことは小學校を出てからホントウの成績がわかります。サア、皆さんも少しです。ウンと勉強しなせう。皆さんの時代は作物の種まきです。ヨイ種をよくまかないと、青年時代に育たないで、ヨイ花が咲きません。又ヨイ實もむすびませ

ん、軍隊でヨイ成績の人は皆小學校の勉強生です。成人して名を挙げた人も皆そうです。皆さん、日本、國民は天皇陛下の御機嫌を、上に戴いて人絀を宇とする。世界第一の偉大なる國民です。決して志氣をばなりません。併し夫れだけに、何事につけても勉強しなければなりません。之を忘れてはなりません。ヨ、ヨ、ヨ、了り

古手からは あとで

しられる カカシかたよ

艱難を 笑つて

くらす 梅の花

國國民精神總動員

國家の前途倍々多端

奮起せよ時難の克服に

起たて一いっけい系のの

大君おほきみを

光ひかりと永久とほに戴いたきて

臣民しんみん我等われら比白みなとも共に

なごし第百七号昭和三年三月号

大村尋常高等小学校 なごしこ編輯部發行